

⑧、⑮ プラットフォーム構築大学の実施状況 【3ページ以内】

【プラットフォーム構築プログラムの内容】

1. 関係者の情報共有を目的としたシンポジウムの計画・開催

1-1 2020年3月 世界展開力強化事業（EU）プラットフォーム構築キックオフシンポジウム

本事業の採択校以外の大学も加え、日本での共同学位のあり方を広く議論するシンポジウムを計画した。新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まった時期であり中止とせざるを得なかったが、事業の方向については関係者で一部共有することができた。

【日時】2020年3月12日（木）13:00～16:30 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

【プログラム】（役職等は計画当時）

- (1) 来賓挨拶（Francesco Fini公使・副代表 駐日欧州連合（EU）代表部）
- (2) 基調講演：“Strategy of collaborative international education programs: Trends, Challenges and Best Practices”（Fouad Bennis エコール・サントラル・ナント（ECN）教授）
- (3) 事例紹介：「慶應義塾大学のCEMSプログラムについて」（稲蔭正彦 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科委員長・教授）、「早稲田大学の英語学位とダブル・ディグリー・プログラムについて」（河村耕平 早稲田大学政治経済学術院教授）
- (4) パネルディスカッション：モデレーターは小尾晋之介 慶應義塾常任理事、パネリストはFouad Bennis教授、稲蔭正彦教授に加え、松川真美教授（同志社大学理工学部電気工学科、T. I. M. E. Advisory Committee）、粕谷英樹教授（名古屋大学大学院医学系研究科）、松田文彦教授（京都大学大学院医学研究科）、村上俊之教授（慶應義塾大学理工学部、世界展開力強化事業（EU）JEMARO 責任者）とし、日本の大学とEUの大学との共同学位プログラムの構築・運用等についての課題抽出、共同学位のあり方についての議論を行う。
- (5) 総括コメント（佐藤邦明 文部科学省国際企画室室長）

【詳細URL】https://www.keio.ac.jp/ja/about/global/20200312_symposium_flyer_ver1.pdf

1-2 2020年7月 日-EU戦略的高等教育連携支援第1回採択校連絡会

本事業に採択された3つのコンソーシアム関係者で進捗状況の確認と情報共有を目的とした会合をオンラインで行った。渡航禁止による活動制限があるなかで、それぞれのコンソーシアムの工夫などについて共有することができ、参加者からは非常にポジティブな評価が得られ、定期的に開催することが合意された。

【日時】2020年7月20日（月）17:30～19:00

【内容】各採択校（3大学）からの現状報告の後、EU側パートナー校を含む全参加者による総合討論が行われた。

【参加者数】26名（2019年度・大学の世界展開力強化事業採択校ならびにEU側パートナー校）

【詳細URL】<https://iuep-eu.keio.ac.jp/symposium/20200720/>



1-3 2021年3月 世界展開力強化事業～日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム

本シンポジウムは2部構成として、第一部は、すでに設置されているジョイント・ディグリー協議会の主要メンバー校を含む関係者による先進的な取り組みの紹介、第二部はプラットフォーム構築事業でカバーする3つのコンソーシアム関係者からの中間報告で構成された。オンラインにてプロジェクト関係者以外にも公開し、コロナ禍における各大学の取り組みや課題を広く共有した。

【日時】2021年3月18日（木）14:30～18:30

【プログラム】（役職等は開催当時）

<第一部>「共同学位プログラム協議会」設立に向けて

- (1) 講演：海外の大学と共同学位プログラムを実施している以下3大学が、各プログラムの現状と課題

について発表した。

- ・「岐阜大学ジョイント・ディグリー（JD）4専攻の概要とJD協議会の設置について」（植松美彦 岐阜大学グローバル推進機構長）
- ・「次世代に向けた国際連携教育としてのJDPの推進」（粕谷英樹 名古屋大学副総長補佐・国際機構副機構長）
- ・「GLA（RU）とCAP（ANU）間DDの現状と課題」（前川一郎 立命館大学グローバル教養学部教授・学部長）

- (2) ディスカッション・質疑応答：小尾晋之介 慶應義塾国際担当常任理事がモデレーターを務め、3大学の発表者に、本事業を所掌する文部科学省の佐藤邦明国際企画室長を交え、学位の質の保証や共同学位プログラムを拡充する上でのより柔軟な制度のあり方などについて議論された。

<第二部>世界展開力強化事業～日-EU戦略的高等教育連携支援第2回採択校連絡会

“The realities of managing international programs during the coronavirus pandemic” をテーマに、本事業に採択された3つの共同学位プログラムHIPS、IMLEX、JEMAROの取り組み状況が発表され、質疑応答や意見交換が行われた。

- ・“HIPS: A humanities program in the time of COVID-19”（青山亨 東京外国語大学教授、Balázs Trencsény ヨーロッパ中央大学教授）
- ・“Lessons learned and issues in implementing IMLEX”（中内茂樹 豊橋技術科学大学教授、Laura Hurmalainen 東フィンランド大学プログラムコーディネーター）
- ・“JEMARO Program for Next Generation Robotics”（村上俊之 慶應義塾大学理工学研究科教授、三木則尚 慶應義塾大学理工学研究科教授、Fouad Bennis エコール・サントラル・ナント（ECN）教授）

【参加者数】のべ196名（対象：国際的な共同学位プログラムに関心のある高等教育関係者等）

【詳細URL】https://iuep-eu.keio.ac.jp/symposium/2020_symposium/

2. 関係者との情報交換

2-1 2020年10月 T. I. M. E. 年次総会への参加（オンライン）

慶應義塾大学理工学部が参画している欧州を中心とした共同学位プログラムの構築を目指す理工系大学間ネットワークであるT. I. M. E. の年次総会に参加し、各国大学関係者と現状報告と将来計画について情報共有を行った。とくに、同ネットワークにはJEMAROの欧州側幹事校であるECNからの出席があり、世界的な情勢について共通理解を深める機会となった。

2-2 2021年1月 ダブル・ディグリー志願者選考会を機とした関係者との懇談

慶應義塾大学理工学部がフランスのエコール・サントラル・グループと共同で行っているプログラムへの2021年度参加希望者（フランス側）の面接を目的としてオンラインの会議を行った。参加校にはJEMAROの幹事校ECNが含まれ、この機会を利用した情報の更新を行うことができた。

3. 採択3事業全体としての情報発信・EUでのプレゼンス向上

本事業（IUEP-EU）に採択された3プログラムHIPS、IMLEX、JEMAROの取り組みと成果の発信、および日本の大学とEUの大学との共同学位プログラムの構築に資する情報提供と公開を目的として、2021年3月に、日-EU戦略的高等教育連携支援事業のウェブサイトを公開した（URL: <https://iuep-eu.keio.ac.jp/>）。動画等による各プログラムの紹介や、プラットフォーム構築事業シンポジウムや採択校連絡会の報告を掲載した。

また、日本の学生だけでなく、EUの学生に向けて採択3校全体のPR動画を制作し、2021年5月にウェブサイト上で公開した。3つのプログラムそれぞれの個性や特色をアピールしつつも、IUEP-EUとしては連帯感を醸成し、主にEUの学生に向けた発信・プレゼンスの向上をはかるため、2021年2月に実施した各プログラムのキーマンヒアリング（東京外国語大学 青山亨教授、豊橋技術科学大学 中内茂樹教授、慶應義塾大学 三木則尚教授へのヒアリング調査）を実施し、ブランドコンセプトを以下のように

まとめ、共同ロゴ・デザインシステムの開発を進めた。

- ・Brand Purpose（事業の存在意義、果たすべき目的）：本事業はヨーロッパと日本を行き来し、ダブル・ディグリーを取得できる留学プログラム。世界中の仲間とつながり、議論し、ともに研究するかけがえのない経験は、大きな人間成長の機会となり、世界を変えていこうとする若者の視野と活躍の場をはるかに広げ、ここから拓く人生をより豊かなものにする。
- ・Brand Differentiators（事業の特徴・優位性・固有性）：ERASMUSへの参画、歴史と伝統（ヨーロッパ＝大学の起源）、先進的（教育・テクノロジー）、研究ができるプログラム、教員・学生とのネットワーク
- ・Brand Personality（事業の人格的特徴・形成したいイメージ）：Trustworthy（信頼感・安心感）、Global（ヨーロッパを起源としたグローバル感）、Dignity（ヨーロッパの品位）、Advancing（先進的教育・研究プログラム）、Excitement（期待感）



4. 学生交流会

2021年3月12日、コロナ禍において物理的に欧州へ渡航できていない3プログラムの学生同士が交流する機会を設定し、学生交流会を実施した。時差のある中で海外の大学の授業に参加する苦労や、逆に日本と海外の両方の授業に参加できるメリットを享受した例などを共有した。奨学金受給資格の喪失、授業の選択の幅が狭まったこと、欧州と比較したときの日本側の手続きの煩雑さなどについての問題提起もなされた。

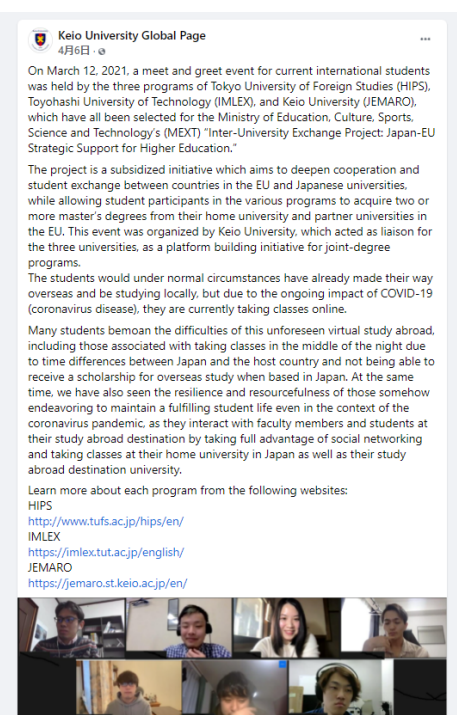
5. 2021年度前半の活動

2021年5月27日をもってプラットフォーム構築事業を担当する常任理事が交代したため、新たな学内体制を構築し、関係者による会合を複数回開いている。学内の連携体制や業務分担の大きな見直しを行い、年度後半の活動計画を策定した。

【達成目標への対応状況】

プラットフォーム構築事業については複数回のシンポジウムを開催するにとどまっている。とくに、共同学位プログラム協議会の構成には至っていない点で達成目標への対応が遅れているが、2021年3月に開催したシンポジウムでの話題提供者から、ジョイント・ディグリー協議会についてはすでに他大学を中心に活動中であるという指摘を受け、本プラットフォーム構築事業で目指す協議会の目的や構成の見直しが強いられることとなった。

新型コロナウイルスによる感染症の拡大については、世界的にワクチン接種が進んでいることから、2021年9月の学生受け入・派遣が可能となる見込みであり、様々な議論もこれを機に進むことが期待される。



進捗状況の概要 【1ページ以内】

2019年9月より準備を開始したJEMAROプログラムでは、慶應義塾大学大学院理工学研究科内に独自の指導体制としてロボティクスに関わる教員23名のグループを組織し、学生の受入れ態勢を整えた。以下に、JEMARO研究指導体制の構築と環境整備の状況についてまとめる。

(1) JEMARO研究指導体制の構築

JEMAROは慶應義塾大学理工学部・理工学研究科では初めての試みとなる学科および専攻・専修の横断型グループ組織となっている。理工学部は11学科から構成され、大学院理工学研究科は学科とは直結しない3つの専攻からなる。各専攻には研究教育分野に応じた4～6の専修が置かれている。専修も必ずしも学科直結ではなく、研究分野を中心に緩やかに形成されている。高度ロボティクス人材の育成を目指すJEMAROでは、広範な専門分野をカバーするため、既存の枠組みに囚われない11学科3専攻15専修に跨る教員グループを新たに組織できる体制とした(図1)。現状では6学科3専攻8専修に関わるグループとなっている。これにより、大学院研究教育課程での高度ロボティクスに関する分野融合型のカリキュラムの提供を可能とした。なお、EUパートナー校との連携により、第1期生12名(内日本人3名)、第2期生20名(内日本人2名)の日本側指導教員の選定はすでに完了している。

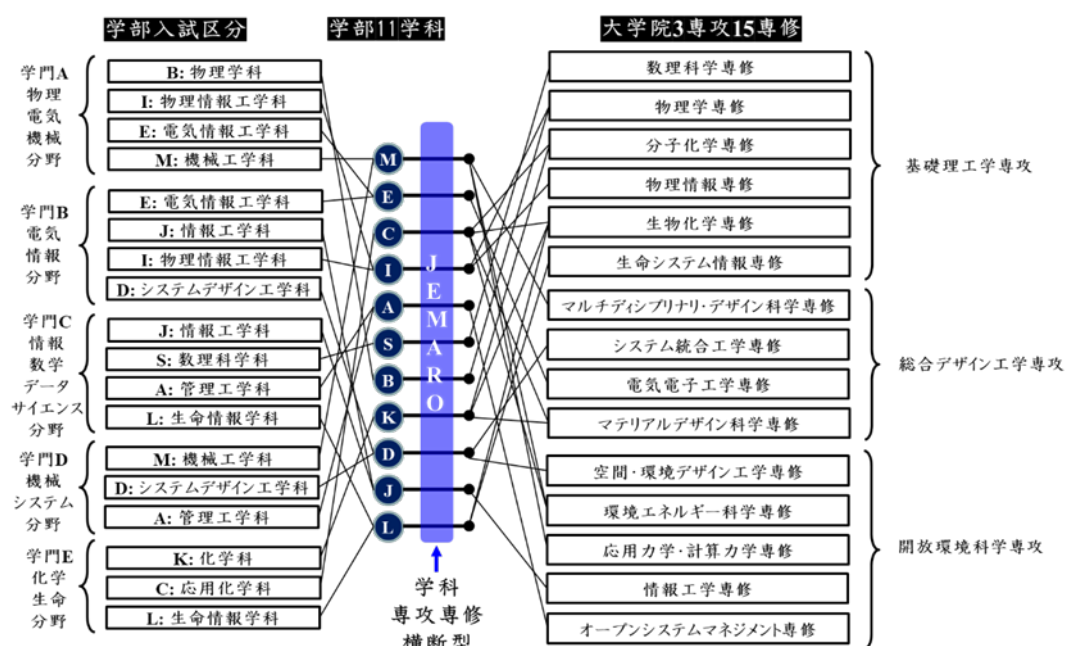


図1: JEMAROグループ組織図(学科、専攻・専修横断型組織)

(2) JEMARO学生のための環境整備の状況

2020年9月に第1期生のJEMAROプログラムがスタートしたが、COVID-19の影響により日本人学生の渡航が行えていない。EUパートナー校からはリアルタイムでの遠隔授業が提供されているため、安定した通信環境ならびに受講環境を、EUとの時差を考慮し、24時間利用可能なJEMARO生専用ルーム(図2)を学内に整備した。専用ルームにはGPUサーバ、大型スクリーンに加え、演習用実験装置等が設置されている。



図2: JEMARO生専用ルーム

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

		(単位:人)			
		2019年度		2020年度	
		派遣	受入	派遣	受入
計画※		0	0	2	0
実績		0	0	3	0
	実際に渡航した学生	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生	0	0	3	0
	実渡航とオンライン受講を行った学生	0	0	0	0

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

これまでに、研究教育指導体制の整備と並行して、学生公募のための広報資料（紹介ビデオおよびウェブサイト）の制作、継続的な改良を行った。その結果、表1に示すように、昨年度（2020年）と今年度（2021年）入試においてそれぞれ433名と527名の応募があり、今年度の応募者数は100名近く増加した。GoogleでのJEMARO検索ヒット数も115,000件（2021年6月）となっており、広報の成果が得られているものと考えている。COVID-19の影響もあり、合格者数に対して最終的な入学者数は50～70%となっており、2022年度以降はこうした状況が改善されるようEU側とさらに協議をすすめている。

表1：JEMAROプログラムへの応募者数と入学者数

Year	Applicants		Successful		Enrolled	
2020	433		24		12	
	EU+α	JP	EU+α	JP	EU+α	JP
	428	5	19	5	9	3
2021	527		24		20	
	EU+α	JP	EU+α	JP	EU+α	JP
	525	2	22	2	18	2

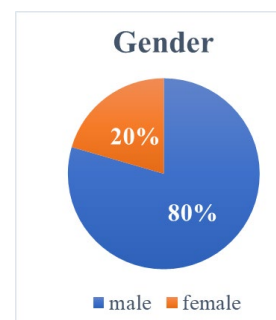


図3：男女比率

また、上記に加え、応募者の男女別および国別比率の統計データを図3および図4に示す。ロボティクス分野は機械・電気・情報の融合領域と捉えることができ、国内では女性の比率は低い傾向にあるが、図3に示すように、JEMAROプログラムの女性の応募者比率は20%と高めになっている。また、2021年度の入学予定者20名のうち女性は7名となっており、その比率は35%と非常に高く、JEMAROプログラムにおいて特筆すべき点と言える。JEMAROプログラムは1年目にEUパートナー校に在籍し、2年目に慶應義塾大学大学院理工学研究科に在籍するプログラムであるため、図4に示すように、中国、インドやパキスタンなどのアジア圏、ナイジェリアやエジプトなどのアフリカ圏からの応募者が多い傾向がみられるが、応募者の出身国は71の国・地域に及んでおり、世界的に幅広く認知された公募プログラムとしてスタートできていることは大きな成果と言える。

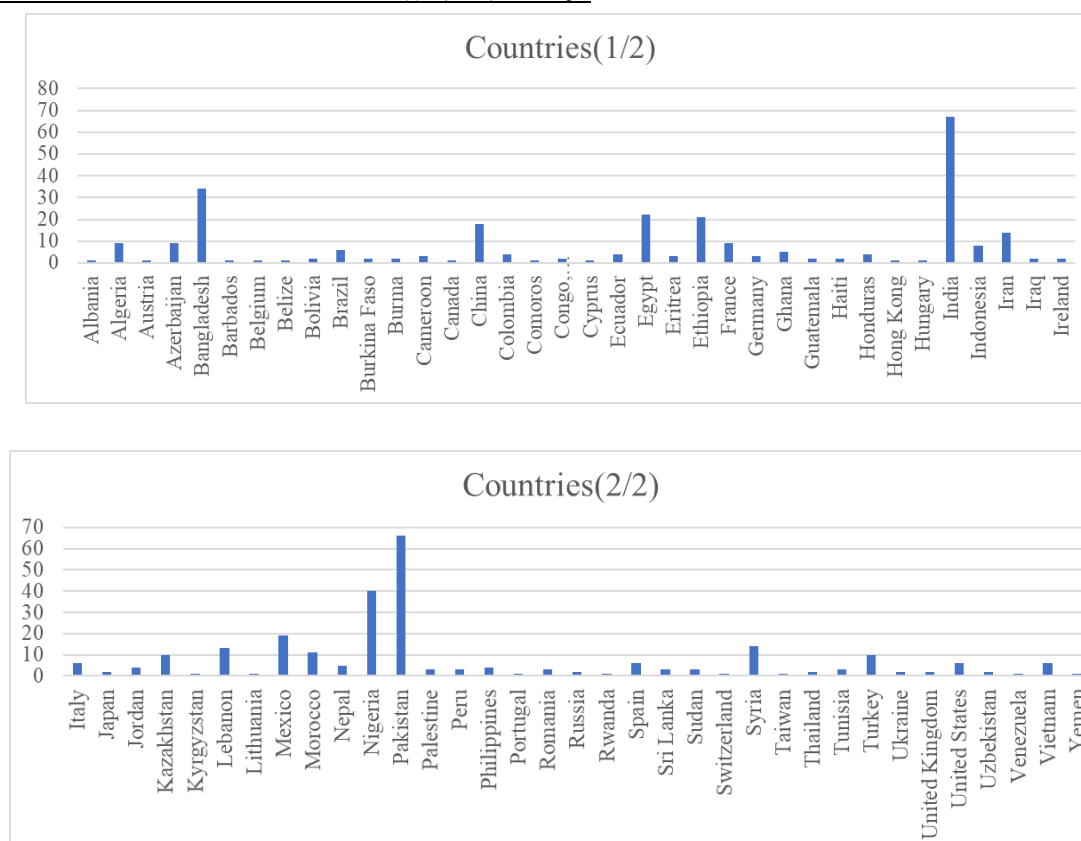


図4：応募者数のデータ（国別）